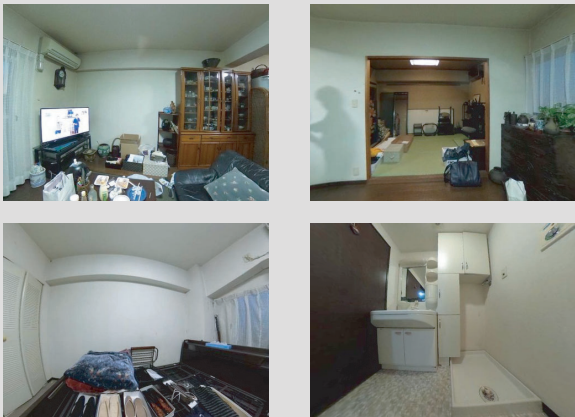
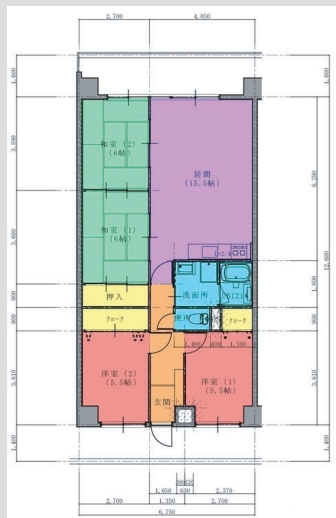


リフォーム前



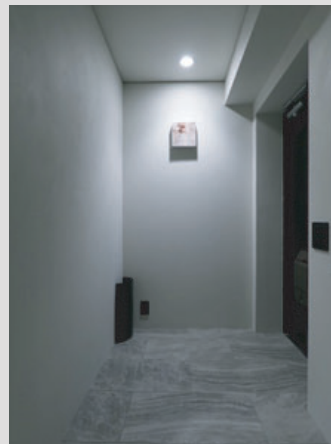
既存の平面プランはオーソドックスな4LDKで、キッチンが居間(リビング)側に食器棚を配置して仕切る使い方をしていたが、隔離感を感じる事が多かったり、使ってない部屋に比べて収納が足りなかった事が不満点としてありました。
細かく区切られた部屋が使い難さの原因になっており、夫婦で利用するには間取りの単純化が求められました。



リフォーム後



使用頻度が低かった和室をなくし、リビングを大空間にした事で大人数の友人を呼ぶ事も可能になり、フレキシブルな空間でありながらも対面キッチンは必要最低限の開口部にする事で、料理中のプライバシー確保をしつつ、オープンな繋がりが可能になっています。
照明器具の演出もオーナー様の好みを反映し雰囲気と遊び心のメリハリで昼と夜も目を楽しませてくれており、こだわりの家具や建材の素材感もデザインの一部とし、バランス良くまとめてスタイリッシュな空間としています。



玄関ホールは、リビングのドアが直接見えないよう視線の溜り場を設ける事で、来客に対しておもてなし感を演出している。また、色を統一して空間をまとめるように工夫した。



玄関から廊下を通った先にある色ガラスの扉を開けると、視線の先に広がる大空間を演出する家具のレイアウトがオーナー様の希望する配置で迎える居間。



非日常感を演出するため洗濯機は収納の中に隠すが、収納スペースは増やして水廻り空間を集約するという使い勝手を向上させ、直接寝室にも行ける利便性も確保した。



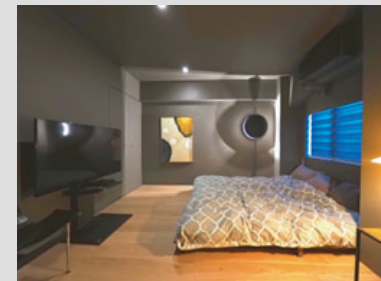
リビングからは、透明なドア越しに廊下の突き当りにある開口部を見せる事で、視線の突き抜け感を演出し、空間に対し連続性をもたせている。



来客時はテレビ側のソファ位置から見える視線の先に、ペンダントライトが下がってダイニングテーブルを引き立つよう奥に絵画が見える計算がされている。



今までは壁向きキッチンで居間側に食器棚があったため、料理中はダイニング側との会話等は望めなかったが、優先順位の結果床レベルを上げる事で対面式を実現した。



素材感がある壁仕上げと照明のバランスによって、落ち着いた雰囲気プライベート空間を確保しつつ、隣接する水廻りエリアを抜けて居間へと通じる利便さも備えている。

応募者	設計者	施工者	築年数	構造	建方形式	竣工	工事期間	工事費	所在地	リフォーム内容
徳永建築事務所	徳永建築事務所 徳永崇大	株式会社 盛洋建設	35年	SRC造	15階建て	2024年1月	80日間	2500万	鹿児島市	マンション戸建て内のリノベーション